山と花のたより 192号 2016年8月15日 松尾忠 メールアドレス tadashi6414@smile.ocn.ne.jp

HP http://yama-to-hana-no-tayori.sakuraweb.com/

髙倉晴子さん(83才)が北岳登頂

7月中旬、健生会友の会有志による「『いつでも元気』読者 のみなさんと登る・北岳ゆっくり登山」が行われた。参加者は 男性4、女性8の12名、平均年齢71歳の高齢者登山。

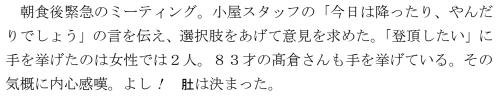
13日23:03 発夜行バスで京都を発ち、14日6:10 山梨県 韮崎駅前着。予約していたタクシーで7:50登山口の広河原に。 今日の目的地は標高2300の白根御池小屋。花と景観を楽し みつつ、ゆっくりと大樺沢を登り、二股で昼食を摂って、13:00 小屋に到着。翌日の北岳ピストンに備えて早めに就寝。

夜中に目が覚めた。3時ちょうど。屋根を叩く雨の音。玄関

を開けて外に出てみる。大した雨では

ない、朝までに止むだろう。4:30 起床、5時朝食。

まだ雨が降っている。仲間の幾人かが不安そうな顔で外を見ている。



昨日から高度障害の症状を呈している人、足を痛めた人を含めて女性6 人が残留。この小屋に連泊するので、こうした選択ができるのだ。

登頂組は6:25 草すべりコースの急登へと歩き始める。ニリンソウ、サンリンソウ、ハクサンフウロ、グンナイフウロ、シモツケソウ、マルバダケブキなど花を確かめつつ、ゆっくりと登る。やがてお花畑に。丁度陽が射

↑カワラナデシコ しはじめ、一面の花々を浮き立たせてくれる。シナノキンバイ、ミヤマダイコンソウ、ハクサンチドリ、テガタチドリ、キバナノコマノツメ、イブキトラノオ、オヤマノエンドウ、ハクサンイチゲと百花繚乱。だがいつもに比べて「すごい!」の感じにやや欠けている。

まもなく小太郎尾根に。毎回ここで見上げる千丈ケ岳、甲斐駒の雄 姿は見えない。だが足元には風衝地帯特有のお花畑が広がって疲れを 癒してくれる。

9:30 肩の小屋着。予定より1時間以上早い。休憩の後

10:40ついに北岳山頂着。富士も間の岳も見えないが、女性2人が手を握り合って互いを讃え合っている。記念写真に納まる髙倉さんの笑顔が眩しい。確信してはいたが、こうして北岳山頂に一緒に立ってみると、改めてこの人のすごさを実感するのだ。私自身あと8年生き





たとしても、果たして北岳に登れるだろ うか。登ろうと思うだろうか。

もう30年近く、一緒に山歩きを続け て来た「人生の大先輩」の晴れやかな笑 顔を見ながら、私自身満ち足りた気持ち を噛みしめていた。



好感度抜群の白山温泉と大村美術館

16日下山し、韮崎市の白山温泉で汗を流し、隣接する「上小路・そば処」でお腹を満たして、 これまたお隣の韮崎大村美術館に入った。美術館では女流画家たちの作品展が催されており、三岸 節子や片岡球子らの名品が展示されていた。この三つの施設はノーベル賞受賞の大村智博士が私費 を投じて造られたもので、いずれも感じのよい素敵なところであった。

続・二上山に咲く花々 8 ガンピ(雁皮) ジンチョウゲ科ガンピ属

(写真は友の会山歩きクラブの澤木仁さん)

和紙の優美さ、強さは世界中でつとに有名。 各国で美術品の保存・修復にも使われており、 国内では古代以来、学問・文化・芸術を支えた だけでなく、生活用品に広く活かされて来まし た。その和紙の原料の一つがガンピで、二上山 の尾根筋に5月ごろ淡黄色の小さい花を咲かせ ます。この可愛らしい花の集まりを目にし始め ると、春は終わりに近づきます。

ガンピは日本の固有種。

続・二上山に咲く花々 9 コガンピ(小雁皮)

ジンチョウゲ科ガンピ属

8月ごろ、二上山頂上部游歩道の各所 で白い花の塊を見せてくれます。ガンピ と違って和紙の原料にはならないので 「イヌガンピ」とも呼ばれます。人間の 役に立たないからと「イヌ〇〇〇」のネ ーミングは、植物に対しても犬に対して も失礼ですよね。

「人間中心思想がなせる哀しき所業」 と言ったら、叱られるでしょうか。



写真は澤木仁さん

